

## 10月は詩人・野田宇太郎の誕生月

小郡市出身の詩人・野田宇太郎は、明治42年10月28日、三井郡立石村大字松崎(現在の小郡市松崎)に生まれました。市は、毎年10月に、野田の生家があった松崎桜馬場の「水鳥」詩碑前で「野田宇太郎生誕祭」を開催しています。野田に捧げる詩の朗読や、野田が作詞した学校の校歌の合唱など、言葉を楽しむ秋の恒例行事です。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、野田宇太郎生誕祭は中止しますが、関連した2つの催しを企画しています。



▲第30回野田宇太郎生誕祭のようす

## 野田宇太郎生誕祭のあゆみ展

昨年、第30回を迎えた「野田宇太郎生誕祭」のあゆみを紹介する企画展示です。「水鳥」詩碑の建立から第1回生誕祭までのあゆみや、献詩の優秀作品の展示などを行います。また、文化財課による油屋の変遷についての展示コーナーもあります。

- 会期 10月3日(土)～24日(土)
- ※期間中、日・月曜は休館
- 時間 午前9時～午後4時30分
- 会場 旧松崎旅籠油屋(小郡市松崎786-1)

## 野田宇太郎文学資料館企画展「碑に込めた思い—野田宇太郎と文学碑—」

野田宇太郎は、近現代の文学者たちに敬意を払い、その功績を広めることに努めました。この企画展では、その顕彰活動のひとつである文学碑建設をテーマに、野田の取組を紹介します。

- 会期 11月26日(木)～令和3年2月28日(日)
- ※会期中、一部展示替えを予定しています
- 時間 午前10時～午後6時
- 会場 野田宇太郎文学資料館展示室(市立図書館内)

## 新刊紹介

10月から、赤い羽根共同募金運動がはじまります。あなたの周りの困難を抱えている人を知ることが支援につながります。



## わたしの身体はままだらない 〈障害者のリアルに迫るゼミ〉特別講義

石田祐貴ほか／著 河出書房新社

性同一性障害、薬物依存、知的障がい児の親など、さまざまな悩みを持つ人が自分自身を語ります。同じ景色でも見る人によって見え方が違うことに、あらためて気付かれます。

## 「脳コワ」さん支援ガイド

鈴木大介／著 医学書院



「脳コワさん」とは、高次脳機能障害や精神疾患、認知症など、脳に何らかのトラブルを抱えた人を定義した言葉です。障がいにより、どんなことに困っているのか、どんな支援がありがたいのかを、当事者でもある著者が解説します。

のか、どんな支援がありがたいのかを、当事者でもある著者が解説します。

## 会話がしんどい人のための 話し方・聞き方の教科書

吉田尚記／著 アスコム



この本は、人と話すことが苦手、可能なら会話から逃げたい、そんなコミュニケーション障害の悩みをもつ人のためのアドバイス集です。当事者はもちろん、コミュニケーションをうまくとれない人の支援のヒントになる1冊です。

コミュニケーションをうまくとれない人の支援のヒントになる1冊です。

## 苦しい時は電話して

坂口恭平／著 講談社



死にたくなるのは、懸命に生きているから——自らも躁鬱病と戦う著者が、自分の携帯電話で開設した「いのちの電話」。自殺者ゼロをめざして、人の声に耳を傾けて考えたことは。

を傾けて考えたことは。